

SHANTI



シャンティ国際
ボランティア会

2024.11
Vol. 320
シャンティ

巻
末
言

道



未来への種まき

アースレーベル合同会社代表取締役社長/
EQIQ 株式会社 取締役/ポケットーク株式会社 顧問
伊藤弘泰

3.11。テレビの前であの^{さいきん}凄惨な光景を見た瞬間、人生の中で、言うなれば白いキャンバスが真っ黒に染まったような感覚を覚えました。震災発生後いてもたってもいられず、有志メンバーと3日間で100万円を集め、ボランティア活動に約5年間没頭しました。その際の仲間の一人が現在の妻であり、その後妻はシャンティにて勤務していました。妻と結婚後、日本とミャンマー(当時妻はシャンティのミャンマー事務所に在籍)で離れて暮らすことになりましたが、その間シャンティの活動にも触れる機会がありました。

特に印象に残ったのは、シャンティの活動拠点の一つであるタイのビルマ難民キャンプを訪問した時のことです。難民の一家族宅にお邪魔し、私は英語でご家族に幾つか簡単な質問をしました。しかし、そこにいた男の子は一言も発することなく黙っていました。後からシャンティの現地職員に聞いてみると、第三国移住で前年まで米国に住んでいたようですが、両親が離婚したために難民キャンプに急ぎょ戻らねばならず、それ以降彼はふさぎ込んでいるとのことでした。自分の意志とは関係なく、アメリカの暮らしから、突然また電気もままならない生活に環境が激変した



伊藤弘泰理事

ら、もし仮にそんなことが自分に起きたら…。何もできない自分がただ小さく感じ、また白いキャンバスが真っ黒に染まったようなあの感覚を覚えたのでした。

その後、妻を通してシャンティの活動をより知るようになり、現在は理事としてシャンティに関らせていただいています。難民キャンプでお会いした男の子のような子どもたちが、より良い教育に自由にアクセスできることを日々願っています。私のような民間を含めて、さまざまな分野の方に一人でも多くシャンティの活動を知っていただくことが、活動を持続的に支えていくために必要です。引き続き皆さまのお力を子どもたちの未来のために貸してください!



特集

ミャンマーでの
10年



SHANTI vol.320 CONTENTS

ミャンマー・テゴンの道端を行く水牛車 (2015年撮影) ©川畑 嘉文

- 4 特集
ミャンマーでの10年
- 16 世界の絵本を読んでみよう
『平和を好む鳥』
ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプ2009年
- 18 世界の麵 ラオスの麵「カオピアックセン」
- 19 世界の現場からAIRMAIL
▶アフガニスタン事務所 ▶カンボジア事務所
▶BRC事務所
- 26 開催報告 講演会
能登半島地震 緊急活動報告会～発災から今日まで、
輪島市被災地域の今～

- 28 つくり手さんのぬくもり
タイ生産者団体
虹の学校
- 29 絵本に込められた想い
『ねずみくん おおきくなったら なにになる?』
- 30 ファインダーをのぞいて
「インレー湖ツアーの甘美な思い出?」
- 31 お知らせ
- 32 道 未来への種まき
アースレーベル合同会社代表取締役社長/
EQUIQ株式会社 取締役/ポケットク株式会社 顧問
伊藤弘泰

ミャンマーでは2010年の総選挙後、半世紀以上続いた軍事政権が終わり、あらゆる面で民主化が進みました。しかし、教育を含む社会サービスの改革は容易ではなく、半数の子どもが小学校の最終学年まで進めない状況でした。

そこでシャンティは2014年、教育課題改善を目的とし、ヤンゴンとपीーに事務所を開設。僧院学校改善事業、公共図書館改善事業、学校に行けない子どもへの支援事業、絵本・児童図書出版事業から活動を開始しました。

2021年2月に起こった国軍による政変により、市民生活は再び脅かされています。そんな中でも、あゆみを止めずに進んできたシャンティとミャンマーの10年間を振り返ります。



今号の表紙
ミャンマー・テゴンで絵本の読み聞かせに参加する子どもたち (2015年撮影) ©川畑 嘉文



【ミャンマーの社会】

ミャンマーはタイやインド、中国などと国境を接し、人口は約5600万人です。約7割を占めるビルマ族を含めシャン、カレンなど130以上の民族が暮らしています。約9割は仏教徒です。

学校は小学校5年、中学校4年、高校2年ですが、国連によると貧困、紛争、言語の壁などにより学校に通えない子どもたちは100万人以上と推定されています。また、2024年2月には徴兵制が始まり、これを忌避する若者の国外流出も懸念されています。

【ミャンマーの経済】

ミャンマーでは、2011年から約10年間の民主化期間に海外から多くの投資が入って急激な経済成長を遂げました。しかし2021年の政変後は、国際的な経済制裁、海外からの投資・援助の減少、外貨不足など状況は悪化する一方です。1人当たりGDP(2022年・世界銀行)は1,149ドルとASEANでは最貧水準です。現地通貨の下落や自然災害による農業生産への影響、食料価格高騰などによる高いインフレ率も市民生活を圧迫しています。

【ミャンマーの政治情勢】

2021年、国軍による政変が起こり、アウン・サン・スー・チー氏率いる国民民主連盟(NLD)政権は転覆しました。これにより2011年から進められた民主化や経済開放の流れは止まりました。政変にあたり国軍は非常事態宣言を発令し、スー・チー氏や大統領ら与野幹部を次々と拘束。市民はこれに抗議し、市民的不服従運動(CDM)や街頭デモを展開しました。また国軍の統治に代わる独自政府として国民統一政府(NUG)が発足しました。それから3年半。軍への抵抗は続き、特に2023年10月以降、国軍と少数民族・民主化勢力などによる武力衝突が激化しています。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)によると、2024年4月時点で国内避難民は約278万人に上り、政治情勢は混乱を深めています。



【ミャンマーのあゆみ】

- 2011年 民政移管**
テイン・セイン大統領が就任し、軍事政権から民政に移行しました。民主化運動の指導者アウン・サン・スー・チー氏と大統領の会談、政治犯解放など新政府主導で民主化が進みました。
- 2015年 総選挙**
民政復帰後の総選挙でアウン・サン・スー・チー氏率いる国民民主連盟(NLD)が大勝。2016年にはNLD政権が発足し、民族和解、民主主義の定着、経済成長が重要施策となりました。
- 2016年 帰還プログラム開始**
2011年から少数民族武装勢力との和平合意が進み、2012年にカレン民族同盟(KNU)も停戦合意。2016年に国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)が仲介し、タイからの難民帰還が始まりました。
- 2020年 総選挙**
11月の総選挙で与党NLDは2015年を上回る大勝を収めました。国軍系の連邦団結発展党(USDP)は大敗しましたが、国軍は2008年憲法により4分の1の議席指名権を保有しています。
- 2021年 国軍による政変と武力衝突の激化**
2月1日、国軍による政変が起きました。政変に反対する市民に対し、国軍は武力で弾圧し多くの市民が犠牲になりました。少数民族が多く暮らす国境地帯では、少数民族武装勢力と国軍との戦闘が続いています。



活動を担っているミャンマー事務所の職員
写真上から:ヤンゴン事務所/バアン事務所/
ビー事務所

昼食

ヤンゴン

お弁当を持ってくる人が多いですが、事務所でつくる人や買ってくる人もいます。肉料理1品と野菜炒めや菓物のサラダをつくる人が多いです。みんなで持ち寄るので品数は完璧です。一緒に食事をするので、まるで第二の家族のようです。みんなでそろって食べる習慣が、私たちを団結させてくれています。



卵や魚、肉、野菜などが並ぶにぎやかな食卓

パアン

昼食はみんなが楽しみにしている時間です。典型的なメニューはライス、カレー、風味豊かなスープ、魚のすり身など。時にはタケノコ、米粉、魚、エビ、カタツムリなどでつくるカレン族の「タルラポット」のような伝統料理が登場することもあります。送別会など特別な日には、全員で外食や取り寄せもします。

ピー

昼食は自宅を食べる人もいます。事務所で食べる時は食卓に弁当のおかずを置き、分け合います。よく食べるのはタケノコ、コニマの葉、クズウコン、マンゴーなど季節の食材。魚のすり身、茹で野菜、茶葉漬けも人気です。ランチは1日の区切り、休憩時間であり、仕事以外の会話を楽しむ機会にもなります。

勤務時の服装

ヤンゴン

総務・経理職員は民族衣装のロンジーを着ることが多いですが、そのほかの職員は事務所から支給されたポロシャツに、ズボン、スカートをはいています。ヤンゴンはバス通勤のため、比較的動きやすい服装が好まれますが、関係機関との会議や面会には上下ロンジーを着用します。



男性も女性も伝統衣装の「ロンジー」が定番

パアン

多くは、事務所から支給されたTシャツやポロシャツにロンジーを着ています。シャンティはビルマの伝統衣装を大切にしており、勤務中のロンジーを奨励しています。雨季の通勤時にはロンジーは面倒なので、半ズボンやレインコートを着て通勤し、到着したらロンジーに着替えます。

ピー

男性も女性も服装はロンジーや事務所から支給されたTシャツが多いです。文化や天候、活動内容などに合わせ適切な服装を選んでおり、研修やセミナーなどでは制服も着用します。ミャンマーには民族ごとに独自の柄があり、チンヤカインといった民族柄の服を着る職員もいます。



1



2

3

現地職員の日常から見る ミャンマーでの生活

ミャンマーの人々は、どんな日常生活を送っているのでしょうか。ここでは、通勤方法・昼食・勤務時の服装という3つのテーマで、ミャンマー国内の3カ所のシャンティ事務所で働く職員たちの生活をご紹介します。地域によって違いはあるものの、変化の著しい社会を反映して、いずれも伝統文化と現代的なトレンドが混在しています。

- ① ピーのマーケット
- ② ヤンゴンの街。道路は車や人々が混雑することも
- ③ パアン郊外にあるズエカピン山の美しい山並み

通勤方法

ヤンゴン

ほとんどの職員がバスを利用します。直通の路線がなかったり、混んでいて直通バスに乗れなかったりして2台を乗り継ぐこともあります。ヤンゴンは人口密度が高く交通量も多いので、特に通勤時間帯はバスが混雑し時間もかかります。バスの中はスリの危険もあるので注意が必要です。



バイクで通勤するピー事務所の職員

パアン

徒歩、自転車、電動自転車、バイク、車などさまざまな交通手段を使って通勤しています。幸いなことに交通渋滞はほとんどなく、道路の状態もおおむね良好なので、最も遠くに住む職員でも時間通りに事務所に到着できます。事務所近くに住む人には徒歩や自転車が人気です。

ピー

燃費が良く渋滞を避けやすいバイクや、手ごろな値段で複数の乗客・荷物を乗せられるトゥクトゥクを使っています。トゥクトゥクは屋根がついているので雨を避けられ、雨季には特に便利です。また、自転車もエコで短距離移動に向いており、健康にも良いため選択肢の一つです。



建設した学校
30校

【活動の成果】

学校校舎の建設や整備費用は本来、教育予算から捻出しますが配分が非常に少なく、政変以降は教育予算自体も縮小されています。シャンティはこれまで老朽化した僧院学校や公立学校を対象に30校建設してきました。新校舎のおかげで、子どもたちは安心して学ぶことができます。



シャンティが建設した学校校舎

学校ができるまで

ミャンマーでの学校区分は大きく3つ、公立学校・僧院学校・私立学校に分けられます。教育制度は、小学校5年間、中学校4年間、高等学校2年間で6歳から小学校に通い始めます。教育現場では教室数の不足が課題として続いていました。そこで、シャンティは教室数の不足を改善するため、2014年から学校建設の活動を行っています。どのような過程を経て学校が完成するのか、5つのステップでご紹介します。

STEP 5



施設維持管理ワークショップ

校舎を長期的に使用するために、維持管理方法を学ぶ研修会を実施します。受講者は教員、学校運営委員会のメンバーです。この研修会を経て、新校舎が正式に校長に引き渡されます。

建設前の教育環境はひどいもので、教室は騒々しくて暑く、木陰に行っておくこともありました。体を動かす場所もなく、発達に支障をきたすほどでした。新校舎が完成し、天気心配やけがの危険から解放された子どもたちの笑顔を見られることは私の喜びです。

シャンティミャンマー事務所
教育プロジェクトスタッフ
テツミヤさん

STEP 4



新校舎使用の準備

建設開始から半年ほどで校舎の建設が完了します。その後、建設に協力いただいたご支援者の芳名プレートが学校の壁面に掲げます。すべての準備が終わると、シャンティ職員、エンジニア、建設会社、校長、教員、学校運営委員会と検査を行い、校舎完成を確認します。

小学生の時から僧院学校に通っています。私が幼いころに兄が僧院学校に通い始めましたが、そのころはまだ小さな木造の建物でした。その後、校舎が建設されるのを見て、ここで学びたいと思いました。新校舎で勉強できてとてもうれしいです。

8年生の生徒
マティンさん

STEP 3



建設工事

郡教育局、校長、学校運営委員会立ち会いのもと、建設会社とシャンティで工事契約を締結します。建設の着工後は職員とエンジニアが週に1回、現場に赴き進捗を確認するほか、学校運営委員会が随時建設状況を確認します。学校関係者にも建設の工程を理解してもらうため、建設に関する研修会を行っています。

STEP 2



建設業者の選定

学校建設を委託する建設会社は公開入札で決定します。公開入札を行う前に、学校側の要望を聞いて建設予定地を照らし合わせ、シャンティのエンジニアと共に建設する校舎デザインのマスタープランを作成します。各社から提出される見積もりや業務経歴を確認した上で業者を決定します。

STEP 1



学校の選定・ 学校運営委員会との調整

郡教育局と連携し、建設予定候補の学校リストを作成します。このリストに沿って学校を訪問し、現状の調査を行います。調査を経て建設対象校が決まると、教員や地域住民で構成される学校運営委員会との調整を開始します。



設置した図書館・室
78館・室

研修会参加者
949人

【活動の成果】

これまで、シャンティは78の図書館・図書室を設置しました。学校の敷地の規模に合わせて教室を図書室に改修する場合と、独立した図書館を建てる場合があります。研修会には949人が参加し、授業でも絵本を活用する方法や、子どもたちが楽しめる絵本の読み聞かせ方法などを学びました。



整備した図書館に集まった子どもたち

図書館活動

ミャンマー全土の学校の55%にしか学校図書館や図書室がありません。図書館があっても児童書の本数がとても少ないため、多くの子どもたちが年齢に合った本を読むことが難しい状況です。教員も図書館に通った経験や児童書を読んで育った経験に乏しく、どのように子どもたちに本を紹介したらよいか迷う場合があります。シャンティは公共図書館の整備や移動図書館活動の実施、学校図書館に関するマニュアルを整備し、研修会を行ってきました。現在、主に行っている学校図書館整備の様子を5つのステップでご紹介します。

STEP 5



学校図書室の開館

教員による読み聞かせや自由時間での読書など、図書館活動が行われます。初めて絵本に触れる子どもも多いので、図書担当の教員は子どもの表情を見ながらテーマに沿って本を紹介するブックトークを行ったり、ポップアップカードを利用したりと、子どもたちに読書を促す取り組みも行います。

公立学校での図書館設置プロジェクトが2018年に始まり、初めて図書館を目にした時、生徒たちは強い興味を持ってくれました。見たこともないような児童書がぎっしり並び、初めての図書館サービスを受けられ、自分たちで飾りつけを行ったことで、図書館は読書やくつろぎの楽しい場所になりました。

シャンティミャンマー事務所
アシスタントプロジェクトコーディネーター
ティンミヤさん

STEP 4



学校図書館研修

図書の分類方法や絵本の読み聞かせ方法、利用者数の記録方法など、研修会の内容は多岐にわたります。初めて見聞きすることばかりですが、講義と実践を盛り込み楽しみながら学べるように心がけています。

学校に絵本が届いてから、生徒たちは変わりました。読書の習慣ができ、暇さえあれば図書館で本を読んでいます。作文や絵画のコンテストがあると図書館を訪れて本を見ています。静かで、校舎とは別の図書館スペースがあることが望ましいと思います。

4年生の教員
ドーソーソーさん
◎『おおきなかぶ』福音館書店

STEP 3



図書室の設置

特注した家具や図書が準備できたら学校図書室に運び、設置します。絵本は本棚に配架します。室内の装飾は子どもたちが楽しめるよう、教員と職員が色紙などを使って手づくりします。

STEP 2



図書室の家具や図書の準備

図書室の規模に合わせて本棚や読書机などを発注します。ミャンマーではこれまで子どものサイズに合った本棚や家具をつくった経験がなかったため、タイで製作されたものを参考にして、ミャンマーでサンプルをつくり、対象地域での製作の可否を探りました。製作が可能になったため、現在は同じデザイン、サイズの家具を受け取っています。ミャンマー国内で出版される児童書の本数が限られているため、日本から届く翻訳絵本も一緒に書籍リストに登録します。

STEP 1



学校の校長や教員と打ち合わせ

郡教育局と連携し、事業を行う対象の学校を選定します。シャンティが校舎を建設する学校に図書室を設置する場合は、校舎建設が進む過程で図書室の設置の工程も確認します。



出版した絵本
26タイトル/152,228冊

出版した紙芝居
7タイトル/1,062部

出版した翻訳教育図書
5タイトル/42,000冊

【活動の成果】

これまで、シャンティは26タイトル15万2,228冊の絵本、7タイトル1,062部の紙芝居、5タイトル4万2,000冊の翻訳教育図書を出版しました。シャンティが活動を開始するまで紙芝居を見たことがない教員や子どもが多く、初めて紙芝居を見た子どもたちは目をキラキラさせながら、お話を一生懸命聞いていました。



出版した絵本を持つ子どもたち

絵本・紙芝居出版

ミャンマー国内では児童書が出版されているものの、その数はとても少なく2014年時点で登録された児童図書は99冊、2015年は108冊程度でした。内容は漫画や雑誌が中心で、絵本であっても漫画的描写のものが多いです。児童書の出版社は10社程度ですが、翻訳出版が中心です。児童書出版を担う人材が不足していることに加え、社会的関心が低い状況を踏まえ、シャンティは人材育成にも取り組んでいます。

児童図書出版研修会の開催

児童図書出版に関わるイラストレーター、作家、編集者を対象に「児童図書出版」「紙芝居制作」研修会を開催しました。日本の専門家が参加し「紙芝居とは何か?」「絵本の役割とは」などの講義に加え、専門家からアドバイスを受けながらグループワークを通してお話をしました。

紙芝居専門家からのコメント

「紙芝居は、子どもたちが絶対好きになる」

2016年ミャンマーで初めて日本生まれの紙芝居を「紙芝居制作研修」で実演したとき、参加のイラストレーター、作家、編集者の皆さんは、初めて観た紙芝居にイメージをふくらませていました。それから5つのグループで紙芝居を合作、尼僧学校を訪ね、ミャンマーの人たちが初めてつくった紙芝居を実演しました。子どもたちは瞳を輝かせ、身を乗り出すように楽しんで観て、手拍子や、一緒に歌い出す作品もあり大喜びでした。ミャンマーでつくられた紙芝居舞台は、二面の扉が翼のように見え、すてきです！

はばだけ ミャンマーの紙芝居



やべみつ のりあき

1942年大阪府生まれ岡山県育ち。1977年より、造形教室「ハラッパ」を主宰。現在は各地で造形遊びや紙芝居作りのワークショップを開いている。絵本『かばさん』（こくま社）、『ふたごのまるまるちゃん』（教育画劇）、『ひとはなくもの』（こくま社）、紙芝居『ふしぎなまど』『あれあれなあーに?』『ほねほねパンツ』（童心社）など多数。

STEP 4



おはなしの印刷

研修会で制作した絵本、紙芝居のデータを職員が体裁を整え最終確認します。関係省庁の確認を経て印刷します。完成した絵本、紙芝居はそれぞれ関係省庁に寄贈するほか、シャンティが建設した学校図書館などに配布します。

絵本専門家からのコメント

2019年に絵本出版事業で初めてミャンマーを訪れました。ほぼ1週間5タイトルをつくるというプロジェクトでしたが、悩み、考え、それぞれ練られた良い作品が出来上がりました。さらにそれを僧院学校で読み聞かせ、ワークショップに展開。子どもたちが目を輝かせ、想像し、創造する姿に大人たちは胸が熱くなりました。あの時、ミャンマーのこれからの大きな希望を感じ、再会を約束して別れました。それから現在、実際には会えていません。でもあの時の希望を忘れることができることをできる形で歩みを進めています。



スギヤマカナオさん

静岡県生まれ。『ペンギンの本』で講談社出版文化賞受賞。主な作品に『K・スギヤマ博士の動物図鑑』（絵本館）、『ほんちゃん』（偕成社）、『みーせーて』（めくるむ）など多数。ワークショップでも精力的に活動中。

STEP 3



専門家からコメントをいただく

作成されたストーリーとイラストに対して、日本の紙芝居、絵本専門家からコメントをいただきます。出版委員会のメンバーはコメントを受けて修正します。出版委員会のグループメンバーと専門家は3回ほどやり取りを繰り返し、ストーリーとイラストを決定します。

STEP 2



ストーリーとイラストを作成する
出版委員会のメンバーでグループをつくり、テーマに沿ってストーリーとイラストを作成します。

STEP 1



出版委員会と会議を行う

出版委員会のメンバーと一緒に、出版するテーマを決めます。テーマは「やさしさ」「信頼」など道徳的観点、「健康」「災害」「食生活」などライフスキルに関わる内容など多岐にわたります。

児童書の開発は1950年から始まりましたが、主に大人のための文学でした。この10年でシャンティの研修に参加した作家、画家、編集者たちは経験を積み、子どもを引きつける本を出版してきました。今後も良い内容、美しい構成、手ごろな価格の本を出版したいです。

私は1990年から漫画や雑誌のイラスト、絵本の仕事を始め、2015年にシャンティが開催した研修に参加しました。研修では、今まで知らなかった多くの知識を専門家から得ることができました。出版文化の進展のためには、芸術家や出版社が、児童書とは何かについて学ぶ必要があると思います。



児童図書出版委員会委員/
副編集長
ドーティンティンさん



児童図書出版委員会委員/
イラストレーター
ソーゾウさん

子ども中心の教育を通じ、本を愛する人に育ってほしい

ミャンマーは過去10年、政治・経済・教育などあらゆる面で大きな変化を遂げました。特に教育においては、教師中心から子ども中心主義に変わりました。シャンティの活動を通じて、子どもたちは絵本に親しむようになり、教師たちは図書館運営の知識や技術を身に付けました。絵本・紙芝居は出版を重ね、作家、画家、編集者たちの技能も向上しました。シャンティは地域社会や当局から、教育のために活動する国際NGOとして市民権を得ています。

2021年の政変以降、状況は悪化しNGO活動も制限されていますが、子どもたちへの教育文化支援は急務です。これからも読書を楽しみ、創造的な思考ができるような教育を受けてほしいと願っています。



ミャンマー事務所
シニアコーディネーター
ヤンナイさん

民間企業勤務やタイ国境地帯での教職を経て、2016年シャンティに入職し、活動の中核を担う



① 紙芝居の読み聞かせをするヤンナイさん
② 研修会の様子

10周年を迎えたミャンマーでの活動

「次の会議があるため、報告は10分で」

支援活動を開始した2014年、所管省庁に図書館活動の四半期報告を行うため、ヤンゴンから車で片道約5時間かかるネピドーに出張した際に言われた一言です。新たな国で図書館活動を行う上で、ある程度の覚悟はあったものの、さすがに激しく落ち込みました。しかし、ミャンマーでの図書館活動の意義の高さを期待していたため、今は我慢の時だと自分に言い聞かせていたことを思い出します。

公共図書館での児童サービス改善や小学校への移動図書館活動に取り組んだ3年間。その後、学校図書館へと活動は広がり、2019年、公共・学校図書館それぞれの所管省庁との協働による「おはなし大会」が開催されました。参加した図書館職員、小学校教員による「読み聞かせ」に見入る子どもたち、真剣に得点をつける審査員（所轄省庁関係者）たちを目にして、ようやくこの日が来た感慨深かったのを覚えています。こうした変化は、現地職員をはじめ、これまで関わったすべての関係者がミャンマーにおける図書館活動の発展に尽力くださった結果であり、心から感謝を申し上げます。これからの5年、10年は今まで以上に困難が待ち受けていると思いますが、ミャンマーの子どもたちの未来に向けて、教育支援を絶対に止めないという職員たちの想いと共に、活動の継続を願うばかりです。



ミャンマー事務所長
中原亜紀

1998年シャンティ入職。タイ、東京、ミャンマー（ビルマ）難民事務事務所での勤務を経て2014年からミャンマー事務所の所長を務める



① 子どもたちと絵本を読む様子
② 図書館での打ち合わせ

私は、紛争の頻発していた町で生まれました。両親は、私が安全な場所にある学校に通えるようにしてくれました。2015年に僧院学校に来てから、家に帰ったのは一度だけです。初めて来た時は全学年が木造校舎で勉強していて、授業に集中できませんでした。図書館もありませんでした。自分たちの教室ができてからは静かに勉強ができるし、読書好きの私にとって図書館はとても便利です。普段は朝と放課後に図書館に通い、行くたびに3冊は読みます。読書をしたり住宅デザインを描いたりする時間が幸せです。



将来の夢はデザインエンジニアになること。もっと発明や科学に関する本を読んでみたいです。

12歳 ナンチャンモーさん
農業を営む両親と妹の4人家族。
お気に入りの本は『風をつかまえたウィリアム』さ・え・ら書房

「学ぶ喜びを知って」

めまぐるしい政治情勢の変遷の影響を受け、ミャンマーでは市民生活も激しい変化の波にさらされてきました。

シャンティでは、ミャンマーの僧院学校に対しても、校舎建設や図書館設置を支援しています。僧院学校に通っている子ども、孤児院で育ち現在は教員として働く方に、現在の想いを聞きました。

私は自分がどこで生まれたか知りません。とても小さい時に僧院学校に来たので、学校の校長先生や先生方、友達が私の家族です。

新しい校舎と図書館ができる前は、学校の敷地内には木造の建物しかありませんでした。今はレンガと鉄筋コンクリート造りの校舎が建ち、私たちは安心して勉強ができます。木も生えていなかった校舎の前や周囲には、たくさんの植物が植えられました。私はいつも放課後、週に4日図書館に行き、毎日3冊は本を読んでいます。今こうして教育を受けることで、自分自身の目標を追いかけ、困っている人を助け、学校を支えることができるようになってと思っています。



9歳 オーカーモウンさん
幼いころから僧院学校で育つ。将来の夢は科学者になること。好きな本は『くわすようぼう』福音館書店

私は幼いころに父を亡くしたので会ったことがありません。母も病気がちだったので、8歳の時に孤児院に来ました。孤児院で育ち、2022年に教員になりました。

幼いころは、人に頼らず自分の力で生きていこうと思っていました。当時は粗末な小屋でしたが、新しい校舎はとても快適で、初めて見た時は幸せな気持ちになりました。特に女子生徒にとって安全で便利になりました。くつろいで過ごしたり、快適に学んだり、訪れた人が休息を取ったりできるようになりました。教育は、自立した人生を送るために重要です。子どもたちには、人生を平和に生きるために、明るく聡明に育ってほしいと思います。

※シャンティは2014年にこの孤児院の建設支援を行いました。

教員 ドーウィンパーさん

高校を卒業後、2022年に教員になり現在4年生を担当。2025年には大学に進学して東洋学を専攻する予定。好きな本は『ふしぎなたけのこ』福音館書店





平和を好む鳥

1



昔々、あるところに、平和に暮らしたいと願うたくさん種類の鳥たちがいました。鳥たちは、自分たちのリーダーを決めたいと、そろって長老たちに頼り出しました。

2



長老たちは話し合い、サイチョウがリーダーに一番ふさわしいと結論を出しました。リーダーになったサイチョウは言いました。「君たちは私をリーダーに選んだ。だから、私の言うことを聞き、私が命令したことは何でもしなければならぬ」。

3



サイチョウは、日が昇る前、まだ暗いうちに早起きをする鳥でした。彼は毎朝、まだ空が暗いうちから鳥たちを起こすようになりました。何日か過ぎたある日、みんなはサイチョウに合わせられなくなりました。そこで、鳥たちは、長老たちに再びリーダーを選びたいと訴えました。

4



長老たちはまた話し合い、今度はキジを新しいリーダーに選びました。リーダーになったキジは言いました。「すべての兄弟、姉妹、父、母たちよ。君たちは私をリーダーに選んだ。だから、私の言うことを聞き、私が命令したことは何でもしなければならぬ」。

5



キジは、アリ塚をつついて食べ物を見つける鳥でした。鳥たちは毎日、キジと一緒にアリ塚から食べ物を取らなければなりませんでした。何日かたつと、みんなはくちばしが痛くなり、キジに合わせられなくなりました。鳥たちが再び新しいリーダーを求めたので、長老たちは話し合いの末、オウチヨウがリーダーにふさわしいという結論に達しました。

6



リーダーになったオウチヨウは言いました。「すべての兄弟、姉妹、父、母たちよ。君たちは私をリーダーに選んだ。だから、君たちはいつでもしたいように働き、起き、眠り、食べ物を見つければよい。君たちにはその権利がある」。それを聞いた鳥たちは、オウチヨウの方針を受け入れ、彼こそ完璧なリーダーだと尊敬しました。

世界の現場から

AIRMAIL

To 日本の皆さん From 活動の現場

このページでは、アジアの各国で活動するシャンティの様子や職員を紹介します。



From Afghanistan

アフガニスタン

政変以降、アフガニスタンの教育環境は悪化していますが、学ぶことへの子どもたちの強い意欲は変わりません。職員は図書館での読み聞かせや学習支援を通じ、その意欲を支えようと日々取り組み続けています。

From Cambodia

カンボジア

カンボジア事務所では、農村やへき地の学校に新校舎を建設する「ドリーム小学校事業」を行っています。対象地域では、子どもたちは簡易な建物や老朽化した木造校舎を使っており、新校舎の建設が急務です。



From BRC

ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所

ウンピラムキャンプ内で運営するコミュニティ図書館は、夏休み期間中の4月、英語とパソコンを学ぶ夏期講習を初めて開催しました。図書館青年ボランティアのメンバーが講師を務め、大好評を博しました。



世界の麺

シャンティの活動地にはユニークな麺料理がたくさんあります。お年寄りから子どもたちまで年齢や世代を問わず愛される麺料理を、シャンティの職員がご紹介します。

ラオスの麺

【カオピアックセン】

ຂ້າງກະສັບ



ラオス事務所
サイサモン・
ブンマニボンさん

シャンティのルアンパバーン事務所、学校建設プロジェクトを担当しています。

ラオスで地元気分を味わえる米粉でつくったもちもち麺

カオピアックセンは、米粉でつくったもちもちした麺が特徴です。この麺を食べればきっとラオスの人々の気分を味わえますよ！材料は米麺、スープ用の豚骨、豚肉、乾燥ニンニク、チリペーセント、タマネギの薄切り、ニンニク、砂糖、ライム、コリアンダーです。まずは、蒸した米粉に小麦粉とお湯を混ぜ、よくこねてセン(麺)をつくりませう。

次に、お湯を沸騰させた鍋に焼いたタマネギ、コリアンダーの根、塩を入れ、さらに豚骨を加えて40分以上煮込み、スープをつくりませう。米麺をゆでて器に盛り、コリアンダー、チリペーセント、乾燥ニンニク、砂糖、ライム、醤油をトッピングして出来上がり。

カオピアックセンは昼食にぴったりです。ルアンパバーン市内で麺を扱うお店ならどこでも食べられます。私のお気に入りの店は「Noodle and a la carte, Sone's restaurant」。スープがとても滑らかで、米麺が柔らかいです。値段は1食約145円ほど。自分でつくってもおいしくできませう。



カオピアックセンを食べられる店内

Hot Topics

1 2023年の実績

2023年の図書館活動への参加者は7万1,410人に上りました。主に教員を対象にした研修会も実施し、613人が参加しています。新たな図書館・図書室も2館設置しました。図書館では国語や算数などの特別教室(補習授業)や、裁縫教室、読み聞かせなどが行われています。

2 クナール県など3県で新事業開始

3月31日から、アフガニスタン事務所は「図書館活動等を通じた多様な教育機会の拡充と女子の教育アクセスの改善事業」を開始しました。活動は主に二つで、一つ目は、教室不足の学校の教室を増設し、教育環境を整備すること。二つ目は、地域の公共図書館を活性化させ、女子児童・生徒の教育機会の提供へとつなげることです。

3 女子教育の機会確保のために

現在、暫定政権は女子の中等教育を認めていません。7年生以降の女子生徒たちは学校の代わりに図書館に来て文字や文章を書いたり読んだりし、厳しい状況下でも新しい知識を得たいと図書館を通して学びを続けています。

ある図書館員は「生徒たちに授業を受けさせてあげたい」と話し、学習を支援しています。学びの機会が失われたアフガニスタンでは、学習を支える活動も、子どもたちが図書館に来るモチベーションの一つになっています。



アフガニスタン事務所
図書館活動トレーナー

PROFILE

アフガニスタンで大学卒業後、教育省に入省。国内の教育環境の改善を目指し、教育省のプロジェクト実施に携わる。2014年、貧しい子どもたちのために働きたいと図書館プロジェクトの担当職員としてジャンティに入職。



From Afghanistan

アフガニスタン

アフガニスタンには、度重なる紛争や政治情勢の変化で、学ぶ機会を十分に得られない子どもたちが多くいます。そんな子どもたちに学びの場を提供するため、図書館事業に取り組んでいます。

強い意欲持つ子どもたち
学びを支える図書館事業

アフガニスタンの教育状況は、政変前と比べると決して良いとは言えません。しかし、子どもたちには「もっと学びたい」「教育を受け続けたい」という強い気持ちがあります。おはなしの読み聞かせなどの活動を通して、学びの意欲が芽生えてくるのです。

学校に新しい図書館ができる
と、生徒たちは教員や図書館員に促されて通うようになり、数週間もたつと図書館で本を読むのが大好きになります。学校図書館を利用することが習慣となり、図書館活動を通して教師の教え方や生徒の学習にも良い変化が生まれていきます。

「図書館は最高の居場所」

ある女子生徒は、図書館に始めて約1年になります。読書を通して文字を覚え、読むことも上手になりました。「図書館は最高の居場所」だと話し、今では家

で兄弟姉妹や親戚の子が本を読むのを手助けしてあげています。

アフガニスタンには、図書館のない公立学校が多くあり、図書館がない学校には移動図書館を通して図書館活動を紹介しています。教材の乏しいアフガニスタンでは、学校図書館は子どもたちの授業への定期的な参加と学習の質に寄与します。このような図書館が増えることを願っています。

Hot Topics

1 コロナ禍を経て戻ってきた支援者たち

新型コロナウイルスの流行が終わり、ドリーム小学校事業の支援者の方々が、再び支援先の学校を訪れ、贈呈式や児童との交流を行えるようになりました。

支援者の皆さまにはサッカーなどのスポーツや折り紙、お絵かきなどの室内活動に参加し、楽しい時間を過ごしてもらいます。互いに絆を深め、学びを得られる特別な機会となっています。

2 地方分権改革で公立学校の管轄に変化

カンボジアでは、近年の地方分権改革により、公立学校の管轄が中央政府から地域や郡、自治体などに移りつつあります。改革下でもドリーム小学校事業を着実に遂行するため、カンボジア事務所は地方行政と連携を深めてきました。その結果、郡行政がシャンティのイベントや活動に常に参加者を派遣してくれるなど、積極的な支援・協力を得られています。

3 よりよい学校環境へ道筋をつける「マスタープラン」

カンボジア事務所では、学校敷地利用計画図（マスタープラン）の作成研修を実施しました。郡教育局、郡行政、地域、学校運営委員会、教員などが参加し、座学や構内の測定、計画図の書き出しなどに取り組みました。計画図は、学校環境の改善に向けて学校の資源を効率的に活用し、構内をより安全で使いやすくし、学校の将来的なニーズを満たすための道筋となります。



カンボジア事務所
テクニカル・サポート/エンジニア
イム・ソンバット

PROFILE

フノンベンで大学で工学学位を取得後、民間企業でエンジニアとして6年間、住宅や病院、学校などの建設に携わる。2019年にシャンティに入職し、建設業務を担当。好きな言葉は「知識は、貧困が減ることのない真の富である」。



From Cambodia

カンボジア

カンボジア事務所では、へき地や農村に新校舎建設を行う「ドリーム小学校事業」を行っています。農村で絵本が大好きな子どもとして育ち、現在はエンジニアとして学校建設を支える職員がお届けします。

ドリーム小学校事業

カンボジア事務所は主な活動として、農村部やへき地の学校に新校舎を建築する「ドリーム小学校事業」に取り組んでいます。

この事業は①校舎と衛生設備（トイレ、手洗い場、貯水タンク）などの建設②家具や掃除用具の提供③ワークショップ（施設維持管理・衛生啓発研修、学校敷地利計画図の作成研修、植樹活動）などを行います。

事業の対象地域では、道路は未舗装で、雨季には通学も大変です。電気やきれいな水が使えない学校もあります。学ぶ施設が足りないため、新校舎の建設が急務です。事業を支えるのは地域ぐるみの参画

この事業では、学校運営委員会が大きな役割を果たしています。たとえば校舎の基礎となる盛り土は、早い時期から資金を地域から集め、現場の建設作業員と時期を調整して実施されます。大雨で道路が冠水して建設資材を運べなくなった時には、委員会が地元当局に掛け合って修復に尽力してくれました。

子どもたちも、植樹活動や手洗いを学ぶ衛生啓発研修などに積極的に参加しています。この事業は、地域の参画により成り立っているのです。

Hot Topics

1 「世界難民の日」のイベントに参加

「世界難民の日」の6月20日、毎年ウンピラムキャンプで開催される一大イベントに、図書館青年ボランティア(TYV)が招待されました。今年新しいメンバーを迎えたTYVは人形劇「3人の友だちとその病気」を披露しました。普段の図書館とは違う大勢の観客を相手に、笑いと笑顔で感動させてくれました。図書館が誰にでも居心地の良い場所だと伝わったのではないのでしょうか。

2 季節性疾患

雨季になると、キャンプでは特定の病気のリスクが高まります。最もよく発生するのが下痢です。ほとんどの家が貯蔵タンクの浄水ではなく、山の水を利用しているためです。蚊が媒介するデング熱も雨季に流行します。図書館ではポスターを掲示したり、読み聞かせの時に蚊から身を守る方法や衛生状態について注意喚起をしたりしています。

3 青少年の薬物使用者増加とその他の問題

キャンプ内では、青少年の薬物問題が深刻です。若者の中にはアルコールや咳止めシロップなどの薬物を使う人もおり、不安やうつといった精神衛生上の問題も生じています。シャンティでは、図書館を訪れる子どもや若者たちに薬物やアルコールを避けるように指導したり、キャンプ全体の会合で改善策を話し合ったりしています。

コミュニティ図書館 図書館員
ナウ・ボウ・クウ

PROFILE

2008年、ミャンマーから家族と共にウンピラムキャンプに移住し、教員、教員トレーナーとして働く。2020年から図書館員として勤務開始。座右の銘は「ベストを尽くす」。



From BRC

ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所

BRC事務所ではコミュニティ図書館を通じた教育文化支援活動を行っています。子どもたちの英語・パソコンスキルを磨く講習を初めて企画・実施したウンピラムキャンプの図書館活動を紹介します。

コミュニティ図書館活動

ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所では、コミュニティ図書館を運営しています。図書館員のほか、「図書館青年ボランティア(TYV)」のメンバーも読み聞かせ活動などを行っています。

ウンピラムキャンプの図書館では、コロナ禍でTYVのメンバーが減ってしまったため、このたび新しいメンバーを迎えました。メンバーは図書館で実地研修を受け、移動図書館を含めた図書館内外の活動を企画しました。

英語とパソコンスキルを磨く夏期講習が大好評

4月には、初めての試みとして英語とパソコンの基礎力を高める夏期講習を開催しました。この地域は3月から5月ごろが最も暑いので、この時期に夏休みがあるのです。

参加者は主に7年生〜9年生で、教えるのは英語とパソコンが

得意なTYVのメンバーです。月曜日から金曜日の午前中は英語コースが20人、パソコンコースが17人で、午後は実地訓練が行われました。土曜日には、図書館員やTYVと共に図書館活動に参加しました。講習後に全員から講座をまた受講してほしいという要望を受けるほど大好評でした。将来的にはアートクラスなど、幼い子どもたちのコースも企画したいと考えています。



市川 斉

シャンティ国際ボランティア会 国内事業課シニアスタッフ
拓殖大学非常勤講師

1990年から、シャンティにて活動開始。阪神淡路大震災の支援活動で神戸事務所長、アフガニスタン事務所長、事務局次長、常務理事、ミャンマー事務所長を歴任後、現職。能登半島地震発生後、門前事務所の事業統括として事業を牽引。



茅野 俊幸

シャンティ国際ボランティア会 副会長
公益財団法人庭野平和財団 理事
長野県 松本市 瑞松寺 住職

能登半島地震発生直後から被災地域で松本の地域団体と炊き出しを開始。現在に至るまで関係団体と連携しながら避難所の運営支援、炊き出しや足湯活動を実施。

開催報告



能登半島地震
緊急活動報告会
輪島市被災地域の今

2024年3月27日、令和6年能登半島地震における支援活動についての報告会を開催しました。国内事業課シニアスタッフの市川職員が能登半島地震の概要と、これまで取り組んできたシャンティの活動内容についてお話しした後、震災直後から現地で支援活動を行ってきた茅野副会長が被災された方々との出会いと支援に対する思いをお伝えしました。
(内容・厚書きは2024年3月時点)

震災直後から現地の状況に
合わせた支援を実施

市川・シャンティはまず1月6日に国内緊急人道支援担当職員を七尾市に派遣。その数日後から輪島市門前町に入って活動拠点を構え、それからさまざまな支援活動に取り組んでいます。

県内外の自治体からあらゆる支援が入る中で、最初は調整役として避難所である門前公民館の運営サポートを行いました。また、ダンボールベッドを

グループホームに配布しました。当時グループホームの建物の一部が福祉避難所になったことにより、定員を超える避難者が床で寝ている状況があったため、環境改善に努めました。2月中旬には、避難所に寝具がまだそろっていないことが浮き彫りになり、敷・掛け布団135セットを配布しました。
また、門前町の炊き出しの関係団体の受け入れ調整を担いました。被災した農家民宿のオーナーやシェフで構成される有志グループと協働で、2月末まで炊き出しを実施しました。驚くべきことに、行政の資金繰りの関係で3月17日時点で弁当が配布されていない自治体もあり、これまでの国内災害をみても、これほど食事に関する課題が顕著だったことはありません。手づくりの温かいみそ汁を飲めることが、いかに尊いかを感じた最初の1カ月間でした。

次に、避難所でお茶会や足湯などのサロン活動を実施したほか、アクセス困難地域の方々を対象に、自衛隊が設営した入浴施設や門前町中心部の買い物への支援車を運行しました。加えて3月からは炊き出しを強化し、行政からの避難者支援の対象

外となった自主避難者・車中泊者に、弁当方式で配布しています。
今回の支援では、各大学やボランティアセンターと提携し、学生および関係者の派遣を行いました。被害に遭った家の片付けに取り組むなど、被災者のニーズ収集やニーズ対応に努めています。家を片付けたいという声も、3月に入るところによく出てきたのには驚きました。

3月24日には地元のお祭り「雪割草まつり」の開催にあたり、二次避難所へのバス運行や復興寄席の実施をサポートし、当日は500人以上が参加しました。加えて他機関との連携も積極的に進んでおり、自治体や他NPOとの県域全体での会議、輪島市内で活動する他団体との情報交換なども行っています。

少しずつ復興が進む一方、
課題は山積み

市川・復興に対する温度差、公費解体家屋の動産をどこまで片付けていいのか。水道が再開している一方で、水道管の破損による漏水や排水の問題により、実際には水を使用できていない家屋も多くあるなど、課

題は山積みです。高齢者の福祉サービスやデイケアサービスが現在も停止しており、家族の負担が増えています。さらには今回の地震をきっかけに街を出る人もおり、街の高齢化が加速しています。仮設住宅の建設など、復興に向けて進んでいる面もあるものの、まだ止まっている部分も多い印象です。

シャンティとして今回のように同じ場所でも活動を続けていることは初めてで、これまでになく地元と密着して活動に取り組んでいます。地元の方にもスタッフとして活動に参加いただいています。外部ボランティアの数が限られているのも今後の課題のひとつです。

多くの地域の皆さんの
想いと協力を支えられて

茅野・震災直後、主要道路は寸断され、迂回しても通行止めといった悪路をなんとか進み、門前町を拠点に活動を開始しました。

断水が続く、食用の水も洗うためにも水も限られる中、手に入る食材で精進料理の炊き出しを行うと、久しぶりの炊き立てのご飯とみそ汁を前

に、避難所に笑顔に戻ったのが印象に残っています。「いつもおいしい炊き出しをありがとう」という言葉と共に、被災された農家の方から食材を提供してもらったこともありました。多くの地元の方が避難所の運営を支えてくださっており、その存在を心強く感じています。

地震後12日間も孤立していた七浦地区の避難所では、泊まり込みで150食のお弁当を作り、配布しました。入浴や買い物の支援車運行では、38日ぶりにお風呂に入った方もいらっしゃいました。また、地元の若者との出会いもあり、彼らの協力のおかげで活動を続けられています。

輪島市門前町は、17年前の能登半島地震から復興の歩を進めている最中で、今回さらに大きな地震に見舞われ、外部の人間には分からない悲しみや苦しみを抱えています。そのような状況においても、外部の団体である私たちシャンティを受け入れていただいています。私たちの想いだけでは、支援は成り立ちません。現地の方々の惜しみない協力があるからこそ、活動が成り立っていると改めて実感しました。

子どもたちの年齢や文化的背景に応じて必要な絵本は異なり、児童書の書店員、図書館員、出版社から、おすそめを教えてください。それぞれの絵本に込められた想いを紹介します。



絵本に込められた想い 絵本を届ける運動

ちよつと先の自分を 想像してみる

子どものころ、夢はありましたか？大人になったらどんな自分になるのだろうか。好きなことを毎日やれるのが、大人？それとも、苦手なことができるようになるのが、大人？

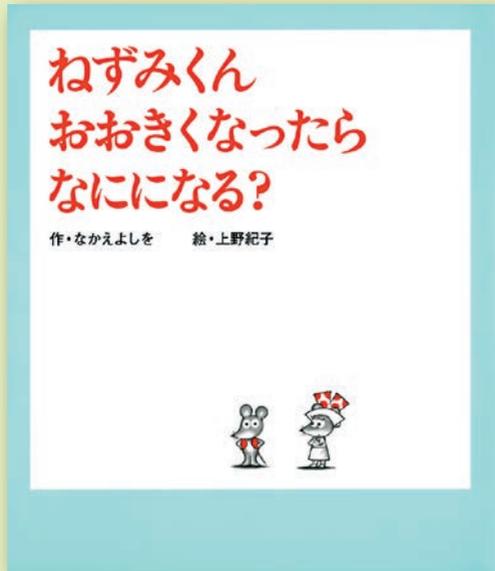
絵本の主人公、ねずみくんが「うーん うーん」と考えていると、仲間がつぎつぎとやってきて、夢を語りはじめます。あひるくんは、飛んだことがないのでパイロット！食べるのが大好きなぶたさんは、ケーキ屋さん。歌手、美容師、消防士……。みんなそれぞれになりたいものがありますが、ねずみくんはまだ見つかりません。

答えがすぐに見つからなくても、好きなことやりたい姿を想像してみよう。それだけでも、今まで気づかなかった「自分発見！」のきっかけになるかもしれません。子どもたちに抱いていた夢を話しながら、ぜひ親子で楽しんでいただきたい一冊です。



出版社紹介：
小堺加奈子さん
ポブラ社 編集本部

1947年、児童書専門の出版社として創業。現在は絵本・読み物・学習本・一般書まで幅広い出版で事業を拡大している。「ねずみくんの絵本」は、1作目『ねずみくんのチョコッキ』刊行から今年で50周年を迎え、現在41巻まで続くロングセラーシリーズ。



『ねずみくん おおきくなったら なにになる?』

作：なかえよしを
絵：上野紀子
出版社：ポブラ社

参加のお申し込みは
こちらから



言語・テーマ

自分の取り柄を知りそれを未来につなげるワクワクを、活動地の子どもたちにも感じてもらいたい、という願いを込めて選びました。2024年に引き続き、2025年もラオスの子どもたちに届けます。

クラフトエイドはアジア各国で民族独自の伝統や技術を生かした商品づくりに取り組んできました。このページでは民族の手仕事とスタッフおすそめの商品を紹介します。

つくり手さんのぬくもり

CRAFT AID



【つくり手さんの紹介】

タイ生産者団体 虹の学校

ミャンマーとの国境の町サンクラブリーで日本人夫婦が運営する養護施設「虹の学校」。2008年に、当時就学機会がなかった山岳民族の孤児や貧困家庭の子どもたちのために創設されました。創設当初よりは教育制度や社会状況も随分変化してきましたが、依然として国籍を持たず厳しい境遇に立たされている子どもたちがいるのが現実です。

そんな厳しい境遇にある山岳民族の子どもたちを受け入れ、大自然の中で子どもたち一人ひとりの個性を尊重しながら、昔ながらの美しい生活様式や伝統文化を大事にしています。また、オルタナティブ教育を実施する学習センターとして、生活および教育支援を行い、国籍取得を見据えたサポートを続けています。

おすそめ
の商品紹介



虹の学校ミニほうき

毎年子どもたちが楽しみにしているほうき草採取の課外学習。子どもたちみんなで採取したほうき草を丁寧に乾燥、加工、編込みをし、可愛いモン族の生地で縫われたカバーを取り付けました。お掃除が楽しくなるアイテムです。



新商品やお買い得情報も
更新中。クラフトエイド・オン
ラインストアはこちらから

シャンティからのお知らせ

シャンティの日記念「ミャンマー10周年」イベントのお知らせ

2024年はシャンティがミャンマーで活動を開始してから10年を迎えます。今年のシャンティの日(12月10日)を記念し、ミャンマーの教育制度の変遷やシャンティのミャンマーにおける10年間の取り組みをテーマとしたイベントを開催します。詳細は随時シャンティ公式ウェブサイトにてお知らせいたします。

日時: 2024年12月6日(金)

2024年度定時社員総会・イベントのお知らせ

2024年度総会を下記の通り開催いたします。総会で議決権のある社員会員の皆さまには、3月初旬に資料をお送りします。総会後にイベントを予定しています。

日時: 2025年3月27日(木)

人事のお知らせ

●退職

山内 乃絵 カンボジア事務所 コーディネーター 5月23日付

●休職

佐々木 ひるみ
広報・リレーションズ課 支援者サービス 兼 絵本を届ける運動担当 7月1日付

●異動

喜納 昌貴
ラオス事務所 コーディネーター
(アフガニスタン事務所 コーディネーター 兼 事業担当より異動) 5月1日付

浅木 麻梨耶
海外緊急人道支援課 チーフ
(ラオス事務所 チーフ・プロジェクト・マネージャーより異動) 8月1日付

●昇格

召田 安宏
総務人事課 チーフ 総務・庶務担当
(総務人事課 総務・庶務担当より昇格) 4月1日付

北田 さやか
総務人事課 課長(総務人事課 課長補佐より昇格) 7月1日付

遺贈寄付を受け付けています

遺贈とは、ご自身が遺される財産や、相続された財産の一部を「未来を担う子どもたち」のために託していただく寄付です。

「遺言」によってご自身が遺される場合だけでなく、ご遺族が故人の遺志を受けて相続財産を役立てたいとお申し出いただくご寄付や、お香典・お花料からのご寄付など、「遺贈」にはさまざまなかたちがございます。シャンティでは、遺贈・相続寄付に関するパンフレットをご希望の方にお送りしております。個別のご相談もお受けしておりますので、お気軽にお問い合わせください。

お問合せ: 広報・リレーションズ課
電話: 03-6457-4585



シャンティ 2024年11月号(通巻320号) | 2024年11月1日発行

発行人: 若林恭英
発行所: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp

編集人: 鈴木晶子
編集・制作: 株式会社文化工房
イラスト: きよはらえみこ
印刷: 株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨て写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



美しい景色が広がる
インレー湖の朝



器用に片足で權を漕ぐ少年



首長族で有名なカレンの少女たちも迎えてくれた



地元の民族たちが集まる朝市

インレー湖ツアーの甘美な思い出？
17年前のこと。ミャンマーのシャン高原に位置するインレー湖を訪れました。宿の外でのんびりしていると、神の悪戯か、若いイギリス人女性からインレー湖ツアーに誘われました。悩んだ末、甘い誘惑に負け翌日ツアーに参加しました。
早朝、エンジン付きのボートに乗り込み出発。水上生活を営む人々や、朝市、寺院などを訪れ撮影。中でも片足で權を漕ぐ姿は物珍しくフォトジェニックで、ツアーは充実そのものでした。
悪魔の錯乱か、その夜女性から食事に誘われました。これまでの旅の思い出などを語り合ううちに「なぜ日本人は鯨を食べるの？」と責められることに。淡い恋が始まるわけもなく、同地の思い出は「鯨食べちゃダメ！」に染められたのでした。

